



1. 第5回 IFERC 事業委員会を開催

10月7・8日ドイツ、ガルヒンクで第5回 IFERC 事業委員会が開催された。今回はカール・ラックナー議長を初めとする委員6名(内3名日本)、専門家8名(内3名日本)および事業チーム6名の計20名が出席した。本事業委員会では、事業長が第6回 BA 運営委員会(12月4日、イタリア、パドヴァで開催予定)に提出する2010年作業計画の草案について勧告を行うとともに、事業の進捗状況について確認を行った。計算機選定のための特別作業グループ(SWG-1)の活動報告等があり、スパコンの市場調査を含めて順調に選定作業が進んでいることを確認し、最終的に事業委員会の勧告を反映して、事業長がBA 運営委員会への提出文書を用意することとなった。次回の事業委員会は、2010年3月10・11日に日本で開催の予定である。

2. 第5回 IFMIF/EVEDA 事業委員会を開催

10月20・21日六ヶ所村の国際核融合エネルギー研究センターで第5回 IFMIF/EVEDA 事業委員会が開催された。秋場新議長(高津議長から交代)を始めとする委員6名(内3名日本)、専門家10名(内6名日本)および事業チーム17名の計33名が出席した。事業長/事業チームから2009年の事業の全体実施状況、加速器施設、リチウムターゲット施設、試験施設毎の活動状況報告、2010年の作業計画の提案が行われた。IFMIF/EVEDA 事業委員会は3施設の各活動に於ける前回会合(今年3月)からの顕著な進展を認識するとともに、2010年の作業計画については、その実施の根拠となる調達取り決めの締結が迅速に行われることを勧告した。次回も六ヶ所で来年3月下旬に開催される予定である。

3. 第2回 IFMIF/EVEDA ワークショップ, IFMIF/EVEDA インターフェース会合, IFMIF/EVEDA 加速器コミッショニングワークショップを開催(図1参照)

9月14・15日に大阪大学の銀杏会館で第2回 IFMIF/EVEDA ワークショップが開催された。事業チーム、原子力機構、日本の大学、欧州貢献研究機関等から、合計87名が参加し、2009年の成果と2010の年次計画案を中心に発表、議論を行った。1日目に事業全体の概況、事業チーム及び日欧ホームチームの組織体制、各実証試験項目の概況等が紹介された。2日目はそれぞれ実施試験項目毎に分科会を開き、実証試験における詳細事項について議論を行った。引き続き9月16日は同会館で IFMIF/EVEDA のターゲット系-テストセル系およびプロトタイプ加速器のインターフェース会合が開かれた。

さらに、9月17・18日には東京新橋の航空会館で IFMIF/EVEDA プロトタイプ加速器のコミッショニングワークショップが開催された(参加者約40名)。事業チーム、原子力機構、欧州貢献研究機関の関係者に加えて J-PARC、SNS、CERN など日米欧の8加速器施設からリニアック担当者を招待し、既存あるいは建設中の加速器の概況、コミッショニング等についての発表を聴き、今後のプロトタイプ加速器のコミッショニングについての議論を行った。

4. 第7回アジアプラズマ核融合学会(APFA2009)およびアジア太平洋プラズマ理論会議(APPTC2009)の見学ツアー開催

10月27~31日に、原子力機構とプラズマ・核融合学会との主催により、この2つの国際会議が青森市の「アウガ」



図1 第2回 IFMIF/EVEDA ワークショップ
(平成21年9月14・15日、大阪大学吹田キャンパス「銀杏会館」にて)

にて同時開催された。10月30・31日には、テクニカルツアーが催され、施設がほぼ完成した六ヶ所の国際核融合エネルギー研究センター等を見学してもらい、アジアの研究者にその活動内容、施設の概要、等を紹介し、アジア地域の核融合研究開発の拠点としての重要性を認識していただいた。

5. 原型炉プラットフォーム会合の開催

10月30・31日に国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟で原型炉設計プラットフォーム会合が開催され、若手研究者を中心に、大学等から17名、機構から14名が参加した。プラズマと工学の両面から、原型炉に適用可能な要素技術や開発戦略等について活発な議論を行い、夜は、近隣の乙供の温泉宿に宿泊して深夜まで車座になっての議論を続けた。分野を超えた情報交換と議論は極めて有意義であるので今後も続けてほしいとの要望が強かった。

6. 施設の建設工事は順調に進捗

各研究施設の建屋の建設工事は順調に進捗しており、計算機・遠隔実験棟では計算機室および遠隔実験室のOAフロアが敷設され、ほぼ建築工事が終了した。原型炉R&D棟では電気・機械設備の機器の据付・調整が進められて



図2 施設の建設が進む国際核融合エネルギー研究センター
(平成21年8月26日撮影)

いる。IFMIF/EVEDA 開発試験棟は、加速器室の内装や、空調設備の設置、電源設備の設置等が進められている(図2参照)。また、10月1日に無事東北電力の系統からサイトへの66 kV/30 MVA 電力供給が開始され、それぞれ工事中の施設への試運転のための電力供給の準備が整った。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)